国推計システム全体像

資料3

平成35年度の医療費（現状ベース）

入院

一般病床	現状ベースの医療費見込み
療養病床	
精神病床	現状ベースの医療費見込み
結核病床	
感染症病床	

在宅医療等は入院外医療費に含む。
病床機能の分化及び連携の推進に伴う在宅医療等の増加分については、推計を求められていない。

入院外

現状ベースの医療費見込み

平成35年度の医療費（取組効果反映後）

一般病床	高度急性期の1人当たり医療費 × 平成35年度の高度急性期の患者数の見込み ＋ 急性期の1人当たり医療費 × 平成35年度の急性期の患者数の見込み ＋ 回復期の1人当たり医療費 × 平成35年度の回復期の患者数の見込み ＋ 慢性期の1人当たり医療費 × 平成35年度の慢性期の患者数の見込み	都道府県独自施策の効果
療養病床		
精神病床	同左	
結核病床		
感染症病床		

地域医療構想を踏まえ機械的に算出

取組効果反映後の医療費見込み

- ①後発医薬品の普及（80%）による効果
- ②特定健診・保健指導の実施率の達成（70%、45%）による効果
- 外来医療費の1人当たり医療費の地域差縮減を目指す取組の効果
  - ③重症化予防による糖尿病患者の減少の効果
  - ④3医療機関以上の重複投薬に係る取組の効果
  - ⑤15剤以上の多剤投与（65歳以上）に係る取組の効果
- ⑥都道府県独自施策の効果